

官民協働でサクラマスを守る

北海道森林管理局 上川南部森林管理署



図1 鵲川位置図

「鵲川」は北海道勇払郡占冠村の狩振岳に源を発し、占冠村と、むかわ町を経て太平洋に注ぐ、延長135 km、流域面積1,270 km²の一級河川です(図1)。この河川で生物多様性の保全を図るため、魚類の往来を妨げていたコンクリート堰堤(昭和36年設置)(写真1)に魚道を設置する改良工事を行いましたので、ご紹介します。

住民会議の開催

以前から地元住民の中には、鵲川に設置している落差工による治山堰堤が魚類の遡上を妨げているのではないかと意見がありました。次第に住民の関心が高まってきました。平成27年には、住民自らが落差工のあり方について考えようと、鵲川との関わりを深める機会をつくり、地域の自然資源とどのように向き合うかを話し合う場として「鵲川の落差工を考える住民会議」(以下「住民会議」)が設立されました。

管内概要

上川南部森林管理署は、北海道のほぼ中央に位置し、石狩山地、夕張山地および日高山脈に接する広大な山岳地域を管轄しています。水系は空知川と鵲川に分かれており、それぞれの源流部となっています。

管内の国有林は、富良野市、上富良野町、南富良野町、占冠村の1市2町1村に広がっており、面積は113千haで、管内市町村の52%を国有林が占めています。

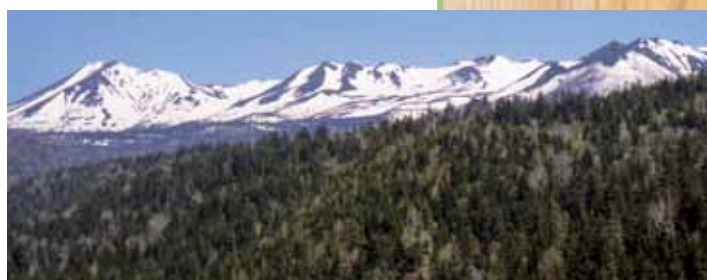
十勝岳、芦別岳、夕張岳などの雄大な山々が多く、十勝岳周辺は大雪山国立公園に指定されています。また、エゾマツ・トドマツの北方系常緑針葉樹をはじめとする多様な森林群落が分布していることから、「森林生態系保護地域」や「緑の回廊」を設定して自然環境や生態系の保全に努めています。

一方、観光資源としては北海道の絶景の一つとされている広大なラベンダー畑などの景観や、国有林の「レクリエーションの森」にも設定されている富良野スキー場、石勝高原トマムスキー場などもあり、四季を通じて多くの観光客が訪れます。



基礎データ

所在地	北海道空知郡南富良野町字幾寅
区域面積	218,341ha
うち森林面積	169,996ha
うち国有林	113,226ha (このほかに北海道森林管理局所管以外の国有林面積 2,886ha がある)
管轄区の関係市町村	富良野市、上富良野町、南富良野町、占冠村、中富良野町



▲十勝岳連峰に属する上ホロ下ホロ



写真1 落差工によるコンクリート堰堤

住民会議では、治山施設の施設管理者（上川南部森林管理署）、河川管理者（北海道上川総合振興局）、占冠村役場の担当者も加わり、落差工があることのメリット・デメリットの考察、そこに生息する魚類の特性を把握するための調査、魚道を設置する場合の種類の検討をするワークショップを、平成27年6月から平成30年12月までに7回開催しました（写真2）。



写真2 住民会議 魚類調査

魚道の設置へ

当初、住民会議で落差工は「取り壊し」の意向が強かったのですが、ワークショップが進むにつれて、防災機能の維持等において必要なものであることが認識され、最終的に「魚道の設置」が望ましいとの考えに至りました。



遡上対象魚をサクラマスとし、魚道の構造は、落差工本体にスリットを設けるものや全体的に切り下げるものを検討しましたが、上流域の川底を低下させ、落差工に隣接している鉄道の鉄橋や公道へ悪影響を及ぼす危険性があるため、右岸側を回り込むように岩盤を掘削し魚道を設置することにしました。また、地域住民の意向を取り入れ、魚道の表面に石を貼る練石組み（写真



写真3 練石組工

最後に

3）で作ることにより、コンクリートが剥き出しとならない自然景観に配慮した魚道としました（写真4）。

令和2年9月に完成した改良工事について、住民の方々からは「魚道ができ、多様な生態系の保護につながる」、「官民が連携し、住民の声を反映した地域づくりの模範となる取り組みである」との評価をいただきました。



本治山施設の改良は、工事検討の段階から問題意識をもつ地元住民の方々に参加いただき、意見を伺いながら合意形成を図り、工事を完成させることができました事例です。こうした取組により、地元住民の方々の河川や魚類等への関心・愛着に加え、治山施設の果た



写真4-1 改良工事完成後



写真4-2 岩盤を掘削して設置した魚道

す役割への理解がより深まったものと考えます。

今後も、魚類の遡上調査等を行い、改良工事の効果について地元の皆様と情報を共有しながら、河川環境を共に見守っていききたいと思っています。